

1. 日時 29 年 10 月 10 日～12 日（2 泊 3 日）
2. 視点 伊豆市の課題である、少子高齢化に対する施策としての、子育て支援の充実や、全世代の安心安全のための地域医療の充実は、先の文教ガーデン構想の否決であるが、こども園・学校・病院等個別の構想の反対は無く、早急に再検討の必要があるとの議員の認識のもと、先進地を行政視察した。

3. 視察先

- 1) 10 月 10 日 幼保連携型認定こども園、児童発達支援、放課後等デイサービスについての視察を、神戸市垂水区の社会福祉法人みかり会の各施設で行った。法人の経営方針として、共生社会の創造：幼老障共生社会の再構築を掲げ、需要のある地域で、多機能型の必要な事業を公立施設の民間移管・指定管理者の受託を受け、法人間の連携を図り展開していく。その結果視察先の障害者就労継続事業を含めた複合経営を視察することができた。

学ぶべき点は、地形を活かした小規模の建物を家族的な雰囲気と自然界の営みを取り入れた構造にしていた点である。平面の構造物や団地型の学校しか知らなかった自分は、急傾斜地に、普通の家庭の家のような階段のある建物を作り、自然の林を活かした庭にしていたことである。また、職員の複数資格の取得支援である。専門性を持ちつつ多職種への人事異動も可能にし、共生支援ができるようにしていた点である。

伊豆市の修善寺東こども園や児童発達支援センターの開設に活かしていただきたい点である。伊豆市の自然と木材等の地場資源を活かした、共生社会を育む修善寺東こども園と併設児童発達支援センター構想を希望する。

- 2) 10 月 11 日 分離型小中一貫校の視察を京都市：東山泉小中一貫校で行った。ここも玄関は教会のようで、伊豆市の団地型学校に無い、独特の学びの雰囲気を感じた。

準備企画から携わっていた校長先生から自信ある丁寧な説明をうけることができた。校長先生の説明を受けて、ここで学んだことは、現場の教師の意見を取り入れた計画にすること。地域の住民の意見を取り入れた構想にすること。十分な説明と時間をかけて取り組むこと。改修工事のしやすい構造にしておくこと。生徒の意見を踏まえて生徒指導をすること。

今後、国として義務教育学校が展開されてくると思われまますので、伊豆市としては現状を踏まえて、伊豆市全体に、小中一貫教育体制を構築し、最低限の複式学級を確保すよう分離型を含めて検討する必要を感じた視察でした。

- 3) 10月12日 関係医療機関の連携、役割分担、医師会との調整役、医師確保対策、地域医療推進協議会、公的病院循環バス利用等地域医療の推進についての視察を舞鶴市で行った。

行政が行う病院統合は、政治問題化し、市長選の大きな焦点になっていた。病院長として考えることがあり市長選に立候補して当選して2期目の現市長だから他の病院長も協力したと考えて、視察に臨んだ。

各病院が連携して得意な診療を行い経営改善に努めているが、カルテや書式の統一までは難しい様子でした。循環バスの利用も少ない様子でした。協議会も開催頻度が少ない様子でした。医師の確保も順調ではないようです。

この視察で学んだことは、市民を巻き込んで地域医療の在り方を検討すること。各病院・医師会との十分な合意形成を図り事業を進めること。行政と議会と市民が一体となり医師の勤務条件の改善、病院支援を考えること。(例えば、夜間受診等真に必要な場合に限ること、人材確保のための奨学金制度の創設、病院ボランティアの育成等)

4. 全体感想 各地域で、独自の事業展開がされていますが、伊豆市として、行政・議会・事業所・市民等がオール伊豆で丁寧な議論を重ね合意した事業はスピード感を持って取り組むことだどつくづく感じた視察でした。